

第1学年 道徳学習指導案

1年 19名
指導者 清水 美穂

1 総合単元名 ところをつなげて

2 総合単元設定の理由

本学級の子どもたちは元気で、生活の中で様々なことに興味をもち、すすんで学習しようとする。これまで、上級生に支えてもらいながら小学校生活の仕方に慣れ、行事にも楽しく参加してきた。そして、牛島小学校の一員として生き生きと学校生活を送っている。

入学したばかりの頃は、初めての小学校生活に慣れることで精一杯であったが、学習を進めていくうちに、自分の家族だけでなく回りの人々にも支えてもらいながら学校生活が送れていることに気が付き始めた。生活科の学習では通学路を歩き、地域には自分たちの安全を守る施設があることを学んだ。また、スクールガードの人たちと交流し、自分たちの登下校を見守ってくださる地域の人々の思いを知ることができた。道徳の時間の学習では、あいさつや礼儀、郷土愛について学び、地域のよさを知り、地域の人々にすすんであいさつしようとする態度が育ちつつある。このように、子どもたちは自己中心の生活から少しずつ視野を広げていきながら、自分たちの回りにはいる様々な人たちの存在に気付くことができた。

2学期は、回りの人とのかかわりをさらに深めていきたいと考えた。まず、命について考える学習を展開した。ここでは、自分が生まれた時のことを親から聞き、親からもらった命がかけがえのないものであることを学んだ。また、家族の思いを知り、家族に感謝し、敬愛する心情を高めた。これらの学習を通して、自分も家族を大切にしようとする気持ちが高まった。そして、自分の命を大切にするとともに、一緒に学校生活を送る友達の命も大切にしなければならないことに気付いた。このように、学習の中で、自分だけでなく少しずつ回りの人の気持ちを考えようとする態度も育ってきている。

そこで、学校での生活や様々な学習に取り組ませる中で友達や回りの人と一層深くかかわらせながら、人の気持ちや思いを深く知り、ともに助け合って活動しようとする心情を育てたいと考え、本単元を設定した。友達や自分の回りの人々とすすんでかかわり、人の気持ちを考えながら心をつなげ、共に生活しようとする態度を育てたい。

3 総合単元の目標

友達など自分の回りにはいる身近な人々とすすんでかかわりながら、共に助け合って生きていこうとする心情を育てる。

4 単元構成について

本単元は、休み時間の異学年交流「わらべタイム」でのわらべ歌遊びを通してたくさんの友達とかかわり合って活動することを基盤とし、3時間の道徳学習を総合単元的に進める。

第1時は、近所の高齢者とかかわり親切にする子をえがいた資料「おばあちゃんただいま」から「思いやり・親切」について考えさせる。高齢者に温かい心で接し、親切にしようとする態度を実践する場として、地域の高齢者との「むかしあそび」交流を設定した。また、この学習を発展させて、国語科では「読み聞かせ」を通した幼稚園児との交流も設定した。

身近な高齢者や幼稚園児とかかわる活動を通して、友達ともかかわり合って活動することが多くなると考えられる。そこで、第2時は、資料「あめふり」から友達とのかかわりについて考えさせる。友達の気持ちを考えた言動の大切さに気付かせ、友達のために思いやりのある言動をとろうとする態度を育てたい。

第3時には、資料「二わのことり」から友達を大切にすることのよさを深く感じ取らせる。自分のことよりも友達のことを思う気持ちの大切さに気付かせ、友達と仲よく助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てる。音楽科の表現学習や学校行事「人権教育推進大会」は、友達とかかわって活動する場、学んだことを生かす場として位置付けている。

このように、3時間の道徳学習とともに、関連させた活動を通して、思いやりの心を持ち、人の気持ちを考えながらすすんで回りの人とかかわろうとする態度を育てたい。

総合単元「こころをつなげて」

課外活動「わらべタイム」

○音楽「音をあわせてがっそうしよう」

○生活「むかしあそびをしよう」
～天寿会との交流～

○国語「幼稚園で『くじらぐも』
の読み聞かせをしよう」

○学校行事
「人権教育推進大会」

	11月 1日	11月 8日	11月18日（本時）
主題	やさしいところで	ともだちのきもちになって	ともだちをおもうころ
資料名	「おばあちゃんただいま」	「あめふり」	「二わのことり」
出典	県副読本 『どうとく』1年	光村教育図書 『どうとく きみがいちば んひかるとき』1年	学校図書 『かがやけ みらい どうとく』1年
内容項目	2－（2） 思いやり・親切	2－（3） 友情・助け合い	2－（3） 友情・助け合い
ねらい	高齢者に温かい心で接し、 親切にしようとする心情 を育てる。	相手の気持ちを考えた言動 をとろうとする態度を育て る。	友達と仲よく助け合い、励 まし合っていこうとする心 情を育てる。

常時活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」での読み聞かせ ・朝の会での「スピーチ」、帰りの会での「心にのこったこと」の発表 ・「つながりカード」の記入 ・「せいかつノート」（日記）
------	---

5 評価

自分の回りの人とすすんでかかわりがもてているか、人とかかわりによって人を大切に思う気持ちももてているか、学習後に活用する「せいかつノート」（日記）を主とした手がかりとして評価する。

6 本時の学習

① 主題名 ともだちを おもうこころ

② 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

2 - (3) 友情・助け合い

友達と仲よくし、助け合う。

友達は家族以外で特にかかわりを深くもつ存在であり、最初は遊び仲間などとして影響し合いながら、共に体験したことや共通の話題、互いの考え方などを通して交流するようになり、生涯にわたり豊かに生きるための大切な存在となる。

このようなよい友達関係を築いていくためには、学習活動や学校生活の中で互いを認め合い、助け合い、理解し合うことを通して、信頼感や友情を育てることが大切である。1年生のこの時期では、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しいことも多い。しかし、学校生活の中で仲よく遊んだり困っている友達のことを心配し助けたりする経験を積み重ねることで、友達のよさを強く感じるようになるだろう。

そこで、学習や遊びの中で身近にいる友達とすすんでかかわらせ、共に仲よく活動しようとする気持ちを育てていきたい。そして、友達の様子の変化にも気付くことができ、困っている友達がいれば助けるという行為ができるようにしたい。

<子どもの実態について>

本学級の子どもたちは、入学して半年が過ぎ、生き生きと学校生活を送り、すすんで学習に取り組んでいる。2学期になって運動会、遠足などの行事に参加することで、1学期よりも交友関係に広がりが見られるようになった。しかし、まだまだ自己中心的で、ささいなことで口論になったり、同じ考え方の仲間とはよくかかわるが、そうでない仲間とは積極的にかかわらなかつたりするというように、安定した友達関係を保てるまでには至っていない。

そこで、他人の立場や気持ちに気付かせ、よりよい友達関係を築くことができるようにしたいと考え、本主題を設定した。生活の中で友達と積極的にかかわり、友達の気持ちを考えて行動できる子どもを育てたい。そして、問題が起こった時には、自分の思いを主張するだけでなく友達の思いも知ろうとし、互いに思いやったり助け合ったりして解決を図るなど、豊かなかかわり合いができるようにしたい。

<教材について>

教材名：二わの ことり（学校図書『かがやけ みらい どうとく』1年）

みそさざいは、ことりたちと一緒にやまがらの誕生日に招待されたが、音楽会の練習をするためにみんながうぐいすの家に行ってしまったので、どうしようか迷いながらもみんなと一緒にうぐいすの家に行ってしまう。しかし、やまがらのことが気になってしかたがないみそさざいは、うぐいすの家をそっと抜け出してやまがらの家に行く。

迷った末に最後には友達を大切にすることを学んだみそさざいの姿を通して、友情の大切さについて考えさせたい。

③ 道徳の時間の指導の工夫

資料に対比してえがかれているうぐいすとやまがらの家の様子や、みそさざいとやまがら、それぞれの鳥の思いをしっかりととらえられるようにするために、鳥の家などを作り、場面の様子をおさえさせる。

その上で、まず、やまがらのことが気になりながらも、みんなの行動に流されてうぐいすの家に行ったみそさざいの心情を考えさせる。次に、役割演技によって、楽しいうぐいすの家に行ったにもかかわらず、やまがらのことが気になり揺れるみそさざいの気持ちに迫らせる。そして、みそさざいがやまがらの家に行ったのはどんな気持ちからかを考えさせることにより、相手の気持ちを考え仲良くしていくことの大切さに気付かせたい。また、涙を浮かべて喜ぶやまがらを見たみそさざいの「やっぱりきてよかった。」と思う気持ちにも共感させ、友達のことを思って行動することのよさを感じ取らせたい。（展開Aーア(ii)）

④ ねらい

友達を大切にし、互いに思いやりをもって仲よく助け合い、励まし合っていこうとする心情を育てる。

⑤ 展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1 友達と仲よくできているか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と仲よくできてうれしかったことがありますか。それは、どんなときですか。 ・昼休みにサッカーに入れてもらって、一緒に遊べて楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。
2 資料「二わのことり」を読んで、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○みんながうぐいすの家へ行ったとき、みそさざいはどんな気持ちになったでしょう。 ・うぐいすさんの家の方が楽しそうだなあ。 ・やまがらくんの家は、山奥で寂しい所だから行きたくないなあ。 ○うぐいすの家でみそさざいはどんなことを考えていたでしょう。 ・ごちそうがたくさんあるし、明るいかから、うぐいすさんの家に来てよかったな。 ・でも、やまがらくんのことを心配だなあ。 ・やまがらくんはどうしているかな。 ○楽しく過ごしていたみそさざいが、うぐいすの家からそっと抜け出してやまがらくんの家に行ったのは、どんな気持ちからでしょう。 ・やまがらくんのお誕生日は1年に1回しかないから、お祝いに行こう。 ・やまがらくんは「みんなはきつと来てくれる。」と思って待っているにちがいない。 ・一人で寂しく待っているやまがらくんに自分だけでもお誕生日のお祝いを言いたい。 ○涙をうかべるやまがらを見たとき、みそさざいはどんな気持ちになったでしょう。 ・やっぱり来てよかったな。 ・これからも友達を大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やまがらとみそさざいの家を対比させ、みそさざいの気持ちに共感させる。 ○役割演技により、みそさざいの揺れる気持ちに共感させる。 ○やまがらのことを考えると、うぐいすの家で自分だけ楽しんではいられなかったみそさざいの気持ちに深く共感させる。 ○自分さえ楽しければよいという気持ちより友だちを大切に思う気持ちが大きくなって、やまがらに向かわせたことに気付かせる。 ○友達に対する思いやりの大切さに気付かせ、友だちのことを思って行動することのよさを感じ取らせる。
3 自分の生活を振り返って考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○みそさざいのように友達のことを思って行動したり、仲よく助け合ったりできていますか。 ・合奏の練習のとき、みんなで協力して楽器を用意した。 ・わらべタイムのとき、後から来た友達に「ここに入り。」と声をかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中から友達のことを思って行動できたことについて振り返らせる。
4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○友達を思うやさしい心が感じられた出来事を話します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実践意欲を高めるようにする。

⑥ 評価

友達のことを思う気持ちの大切さを感じ取り、友達と仲よくし、助け合い励まし合っていこうとする意欲が高まったか、発言をもとに評価する。